

内部評価の結果

【再評価】横代南町山手1号線道路改築事業

【評価結果】

継続

【評価理由】

横代南町山手1号線は、小倉南区横代南町五丁目を起点とし、山手三丁目(都市計画道路(以下、(都)とする。)蛭田若園企救丘線)を終点とする、延長1km、2車線の市道である。

本路線は、並行する国道10号と(都)5号線を補完する、(都)南方朽網線の一部を構築する路線である。

(都)南方朽網線は、昭和42年の都市計画決定以降、昭和48年度より、順次整備を進めている。本路線においても平成17年度に事業着手し、起点側の740mは平成25年度に供用を開始した。

一方、終点側の260mでは補償物件の移転にあたり、移転先での再建に必要な法令上の許可を受けるまでに時間を要したことから事業期間を5年間延伸する見込みとなり、また事業費についても、補償物件の詳細調査の結果による補償費の増額、現地の条件を踏まえた施工方法の変更、及び人件費等の高騰や増税により、40億円の増額(35億円→75億円)となる見込みとなった。

しかしながら、走行時間の短縮、周辺幹線道路の交通の分散、重要物流道路である国道10号の災害時の代替ルート確保、及び地域の生活道路の安全確保等から、整備の必要性は高い。

また、本路線の完成により、小倉南区の交通ネットワークの一部が構築されることから、その事業効果は高く、早期の完成が望まれていることが公共事業調整会議の中で示され、対応方針(案)として「継続」を決定した。

なお、公共事業調整会議では、事業費が大幅な増額となる見込みであることから、本事業の必要性を市民により分かりやすく説明する必要があるとの意見があった。

これに対しては、事業期間や事業費の変更理由について経緯等を踏まえて説明するとともに、客観的な数値を示す等で本事業の効果や有効性をより明確にするなど、事業の必要性に関して十分な説明に努めていく。